

Fusyo Collaboration letter



11月 13日 No.23 文責 廣田 秀俊

グローバルリーダーに求められる確かな学力の育成

11月30日(土)に附属小学校で外国語セミナーが開催されます。平成28年度から継続して取り組んでいる本校における学びの場です。当日は前文科省視学官である直山木綿子教授(現関西外国語大学教授)に直接指導をしていただきます。

昨年度も200名を超える参加者があり、1年生から6年生までのすべての学級の授業を公開し、その実践をふまえた今後の授業について、参加教職員とともに学びを深めていきます。



今年度は「単元ゴールにつながる必然性のある英語表現等の活用」を実践するため、相手を意識しながら慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を使って伝え合う活動を重視して行っています。どうすれば相手により伝わるかを思考しながら、相手により理解してもらうため様々な工夫点を見つけ表現しています。

外国語で育てたい力として、自分のことや自分の気持ち、考えを

- ① 相手により伝わるように(相手意識)
- ② 既習表現を選択しながら
- ③ 工夫しながら
- ④ 考えを再構築しながら

伝え合ったり、尋ね合ったりする力が身に付けられるよう学びを進めています。



グローバルタイムを活用した1,2年生の活動は、色や動物など身近に感じるものを題材とし、仲間と尋ねたり答えたりすることで、伝え合う事の楽しさや達成感を味わっていきます。

3,4年生では、自分の住むまちや住んでいる人にスポットを当てながら、コミュニケーションを育む活動を行っています。

5,6年生になると、さらに視野を広げていきます。大分をテーマにした事柄を伝えていったり、過去や未来について考えていったりすることで、たくさんの人との交流ができるように、学びがさらに深まっています。



学級で行っているフリートークやほめ言葉のシャワーでの実践が、外国語学習にも生きてきます。それは相手の話を聞いたり、自分の話を投げかけたりしていくことで、もっと知りたいこと、もっと伝えたいことが増えていくからです。



英語を使って相手に伝わったときの満足感も、そこにあらわれてくるのだと思います。